Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Effects of Two Types of Prosthetic Valves For Transcatheter Aortic Valve Implantation On Intraoperative Left Ventricular End-diastolic Pressure

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 豊田, 浩作 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033257

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙　第　号	氏　　名	豊田　浩作
審　査　委　員　会	主　査　教　授	矢口　有乃	

論文審査の要旨（400 字以内）

本研究は、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置換術（以下 TAVI）で使用するバルーン拡張型人工弁と自己拡張型人工弁の弁の種類により、術中の左室拡張末期圧（以下 LVEDP）への影響の差異を知ることを目的として行なわれた。TAVI を施行された 181 例を後方視的に調査し、術中の左心カテーテルで測定された人工弁留置前後の LVEDP の変化を検討している。181 例中、バルーン拡張型人工弁留置は 120 例(以下 B 群)で、自己拡張型人工弁留置は 61 名（以下 S 群）であった。両群を比較すると LVEDP は S 群が B 群より有意に低下した(S 群 -1.3 ± 6.0 mmHg vs. B 群 0.8 ± 5.1 mmHg, $p < 0.05$)。大動脈弁逆流の影響を除外するため、大動脈弁逆流症例（B 群 20 例、S 群 25 例）を除外したサブグループ解析においても、LVEDP は S 群が B 群より有意に低下した(S 群 -1.8 ± 5.6 mmHg vs. B 群 0.5 ± 4.8 mmHg, $p < 0.05$)。自己拡張型人工弁の使用はバルーン拡張型人工弁の使用に比べて人工弁留置後の LVEDP 上昇の防止に寄与する可能性を示唆している。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]